



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」

聖書(ヨハネ福音書17章3節)

牧師 河合裕志

私達が日頃唱えている「使徒信条」は「永遠の命を信ず」で終わっている。いずれこの世の生涯に幕がおろされたなら、この時を境として永遠の命を生き始めるんだ、もはや時間的制約を離れて天の国において永遠の生を楽しむんだ、神とキリストを間近かに仰ぎ深く交流の時を持つ、先に召された親しい者達と再会する、「もはや飢えることもなく渴くこともない」(ヨハネ黙示録7章16節)、全く充足した、喜びと平安の内にあって日々を過す……そんな永遠の命のあることを信じて今を生きている。これがクリスチャンというもの。

ところでこの永遠の命は実は現世から始まっている側面がある。イエスは表記の言葉で、永遠の命は神と私イエスを「知ること」だよ、と言っている。この「知る」は単に知的に知ると言うことにとどまらず「交わる」ことを意味している。イエスの十字架の犠牲によって罪を赦され、神とイエスとの交流の道が開かれた。結果、神に祈ったりイエスに祈ったり出来るようになった。この祈りは神とイエスとの交わりのひと時。ここに平安、喜びがある。そうなら永遠の命とはここにスタートを切ることになる。神とイエスとの交流、そ

れに伴う平安と喜びは天の国において一層豊かに続くことになるのだから。

日本を代表する神学者の一人、恩師の熊野義孝氏(1899~1981年)はこう記している。「キリスト者の永生(永遠の生命)の希望は、たんに個体の死後存続をいうにとどまらない。それは、罪をきよめられ、神の子供とされた者どもが、主キリストを中心とするところの恒久のまじわりを予想するものであって、その意味では、永生はすでに今日、われわれの信仰生活において先取りされている事実だと言っようよい」(『キリスト教要義』より)。

「恒久」って言葉、確か日本国憲法の前文にあった。「日本国民は恒久の平和を念願し……」、本当に恒久の、つまり永久、永遠の平和を念願したいもの。

今熊野氏は「恒久のまじわり」と言った。主キリストを中心とした交わり、それが永生ということであり、それは今日信仰生活において先取りされている、日々の祈りと日曜礼拝において。この幸いな交わりは現世より死後にわたって存続する、まさに恒久の交わりというもの。未来永遠に続く恒久の交わり=永遠の命を今生き始めていることを喜び感謝したい。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前10時

牧師面談：水曜日午後1時~7時